

★学校の教育目標	自立 共生 将来に夢や希望を抱き自らその実現に向け成長する力、より良く生きるための基礎的力（＝自立）を付け、地域における学校として助け合い共に生き	★重点計画の概要	日野三中 トライ！トリプルプロジェクト プロジェクト「学びの往還プロジェクト
★目指す学校像（ビジョン）			
【目指す生徒像】	自己を見つめ、他者を尊重し、認め合い、学び合い、社会の中でよりよく生きようとする態度を身に付けた生徒		
【目指す学校像】	地域の信頼を得て、地域活性化への協働を果たす学校		
【目指す教師像】	生徒のために働くことを第一に、ワークキャリアの各段階においてライフ・ワーク・バランスを実現する教職員		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	プロジェクト3 「みっちゃん」をシンボルとした三中意識を保護者に浸透	保護者の学校への積極的な参画を促すための分かりやすい情報発信	学校からの情報発信をスマート化（日本語の表現の工夫やICTを活用して届けやすく読みやすく）する。	3	4 保護者に向けて文書のうち、従来よりも分かりやすくてきたもの 90%以上 3 保護者に向けて文書のうち、従来よりも分かりやすくてきたもの 70%以上 2 保護者に向けて文書のうち、従来よりも分かりやすくてきたもの 50%以上 1 保護者に向けて文書のうち、従来よりも分かりやすくてきたもの 50%未満	3	4 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 90%以上 3 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 70%以上 2 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 50%以上 1 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 50%未満	学校ホームページ、各種おたよりなどが見やすくわかりやすい表記であった。また、評議員とのやり取りもICTを積極的に活用し、双方向の情報のやり取りを行うことで、学校の教育活動への理解が深まった。	情報発信のスマート化、わかりやすさはおおむね達成することができた。学校評価の内容や表記の工夫により保護者回答率が9割に迫り、参考となる多くの意見をいただけた。一方行事や学校公開のアンケートの回収率は課題が残る。工夫や改善を進める必要がある。
	プロジェクト3 「みっちゃん団」との互恵関係の構築	みっちゃん団登録団体を拡充するとともに、地域行事の開催に貢献	みっちゃん団登録団体を増加し、登録団体による具体的な学校支援を依頼する。「ほどくぼんおどり」を実行委員会と協力、連携して開催する。これを契機に地域の事業所の協力を得た教育活動を促進する。	4	4 みっちゃん団やほどくぼんおどりの広報を支援する発信 各事業体5回以上 3 みっちゃん団やほどくぼんおどりの広報を支援する発信 各事業体3回以上 2 みっちゃん団やほどくぼんおどりの広報を支援する発信 各事業体2回以上 1 みっちゃん団やほどくぼんおどりの広報を支援する発信 各事業体1回	3	4 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 90%以上 3 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 70%以上 2 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 50%以上 1 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 50%未満	みっちゃん団、育成会、ほどくぼんおどりなど地域の活動に生徒が参加し活躍する姿が見られて良かった。参加する生徒が戸惑うことがないよう、役割や手順の明確化を行い、さらなる参加を促したい。地域の人の日々のコミュニケーションから、子供たちは地域から見守られていると感じている。	学校施設開放外部団体のみっちゃん団への参加、民生委員や地域消防団の積極的な学校活動への参画を促し、学校支援に繋げることができた。今後も一層連携を深め、地域と共にある教育活動を行ってきたい。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	プロジェクト2 過去から未来につながる自分の学びを見通して構想	将来の夢につながる学びのキャリアを見える化	キャリアパスポートの活用頻度を向上し、「何を学んだのか」「どのように学んだのか」の生徒への意識付けを図る。小学校、小学生向けの中学校生活のガイダンスを充実させ、希望をもった進学につなげる。3年卒業時には、18歳の社会参加を想像した進路選択を指導し進路決定につなげる。	3	4 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 90%以上 3 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 70%以上 2 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 50%以上 1 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 50%未満	2	4 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だ、と考える生徒 90%以上 3 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だ、と考える生徒 70%以上 2 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だ、と考える生徒 50%以上 1 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だ、と考える生徒 50%未満	将来の夢の構想については、アンケートの結果を見ると課題が残る数字ではあった。小さな目標から1つずつステップを登っていくと最終的な目標が見つかり、将来の夢につながるというメッセージを伝えていきたい。	教育課程におけるキャリア教育を見直す。学びの連続性を意識し将来の夢につながる学びへと改善していく。多様な生徒を包摂する学校であって欲しい。教員は熱量を持って授業を行っている様子が見られる。相談しやすさという部分では口頭だけでなく、テキストメッセージを利用するなどの工夫はどうか。
	プロジェクト2 多様な学びの実現に向けた意識で知識の習得	多様な学びの場を貴く教科指導「自立活動」の正しい理解と個に応じた配慮	教育課程を構造的に理解し、通常の学級における特別支援教育の目的に沿った生徒理解を充実させる。合わせて、特別支援学級・特別支援教室における教科指導を充実させる。	4	4 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 90%以上 3 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 70%以上 2 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 50%以上 1 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 50%未満	4	4 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 90%以上 3 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 70%以上 2 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 50%以上 1 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 50%未満	来年度の教育課程の構想には、行政へのはたらきかけも含めて支援していきたい。多様な生徒を包摂する学校であって欲しい。教員は熱量を持って授業を行っている様子が見られる。相談しやすさという部分では口頭だけでなく、テキストメッセージを利用するなどの工夫はどうか。	通常の学級における特別支援教育の一層の理解、推進を行う。特別支援学級・特別支援教室を含め、教科指導の充実と共に、学んだことの評価方法の開発を進めていきたい。また、教員間で理解の股化を行いそれぞれ指導に活かしていく。
社会と未来に関き、みんななでをつくる	プロジェクト1 地域社会での体験と学校内の生活の往還	地域に根差した総合的な学習の時間や特別活動等と、校内での各種活動との学び合い	より豊かな社会体験を目指し、みっちゃん団登録団体や地域事業所の後援を得た体験活動を実施するとともに、校内諸活動の見直しを行う。	4	4 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 90%以上 3 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 70%以上 2 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 50%以上 1 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 50%未満	3	4 体験を通して自己との対話に気持ち、学びの深まりを自覚した生徒 90%以上 3 体験を通して自己との対話に気持ち、学びの深まりを自覚した生徒 70%以上 2 体験を通して自己との対話に気持ち、学びの深まりを自覚した生徒 50%以上 1 体験を通して自己との対話に気持ち、学びの深まりを自覚した生徒 50%未満	きまり検討委員会の内容はとても良かった。子供たちの意見を取り入れていくことは時代的にもあっている。子供には考えるポテンシャルがある。アウトプットの機会があること、問題意識をもつこと、問題を解決していく力はとても大切である。	きまり検討を通して問題意識をもち、きまりや制服等の意味について考えさせることができた。2年生が職場体験を実施、まとめ、発表したことが、地域社会での体験として十分に結びついていなかったことがアンケートの結果から明らかになった。学びの背景を理解させる声掛けを行っていく。
	プロジェクト1 総合的な学習等と各教科等の学習の往還	体験を通して得られた知識や技能を教科の内容に照らし検証し、よりよい指導計画の作成	校内研究として総合的な学習の時間の実践研究を実施する。分析して得られた教科の内容を含む部分の指導計画の教科会での検討を行う。	4	4 校内研究が進み、カリキュラム・マネジメントの理解が進んだと考える教員 90%以上 3 校内研究が進み、カリキュラム・マネジメントの理解が進んだと考える教員 70%以上 2 校内研究が進み、カリキュラム・マネジメントの理解が進んだと考える教員 50%以上 1 校内研究が進み、カリキュラム・マネジメントの理解が進んだと考える教員 50%未満	3	4 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 90%以上 3 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 70%以上 2 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 50%以上 1 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 50%未満	1年生の職業インタビューや2年生の職場体験が将来へつなげる大切なプロセスだと感じる。小学校では、身近な疑問を持たせるはたらきかけを行っている。中学校での取り組みにつながるようはたらきかけをしていきたい。	主体性を育てるため、総合的な学習の時間を通して実践研究を行った。ICT教材を活用し、各教科とのように結びつかる考えさせ、その視点をもって総合的な学習の時間に取り組んだ。この研究から得られたことを来年度以降の教育活動に生かしていきたい。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。